

## 令和2年度あま市自殺対策ネットワーク会議 会議録

### 1 開催方法

書面会議

### 2 報告事項

令和元年度あま市自殺対策ネットワーク会議会議録要旨について

### 3 議題

- (1) あま市自殺対策計画の推進について
- (2) 今年度の重点施策について

## 記

### 報告事項

令和元年度あま市自殺対策ネットワーク会議会議録要旨について【資料1】

### 議題

#### (1) あま市自殺対策計画の推進について【資料2】

(覺前委員)

計画の推進にあたり、市内の2つの精神科病院と自殺対策計画との関わりを、具体的に明記されていくことが望ましい。

(事務局)

自殺対策は予防から継続的に取り組む必要があるため、専門機関である精神科病院との定期的な打合せで課題の分析を行うなど、各種施策を推進するための情報共有を図る。

(村岡委員)

当初策定された自殺対策計画が、新型コロナにより周囲環境も大きく変化しているので、コロナ禍での計画推進の在り方を検討する必要があるのではと感じた。

(事務局)

コロナ禍で自殺者数の増加が懸念されていることもあり、市長による市民に向けた自殺防止に関するメッセージを発信するなど、各種相談窓口の周知啓発に努めた。令和2年度のコロナ禍での新たな取組について精査し、必要な取組については今後も継続して実施する。

## (2) 今年度の重点施策について【資料3】【資料4】

(覺前委員)

人材育成のための講座の開催や普及啓発のためリーフレットの配布を行ったことにより、どのような結果・効果があったのかを踏まえ、次年度の計画に反映していくことが望ましい。

(事務局)

気づきのための人材育成として、ゲートキーパー養成講座の実施回数を増やし、受講者アンケートの「自殺対策等の理解が深まった」と回答する割合が増えることで、これまで以上に多くの市民や市職員の自殺対策の理解を促進していく。

(村岡委員)

高齢者が重点施策の一つとしてあるが、今後も必要と考える。

コロナ禍では雇用問題や収入減による心理的ストレスが年代問わず考えられ、対策が必要と感じた。「困ったときの相談窓口」の配布などは大変よかったと思う。

(事務局)

高齢者の集う地域のサロンでの周知啓発や、民生児童委員と連携した取組を継続して実施する。

## その他

(大崎委員)

児童生徒の自殺対策に資する教育（SOSの出し方）の推進について、より進めるために具体化が必要だと感じた。

(事務局)

市内小中学校の養護教諭が中心となり、SOSの出し方教育の指導案を作成していく。

(村岡委員)

コロナ禍では様々な自殺予防対策（ゲートキーパー養成講座、会議開催、仕組みづくり等）が制約を受けるので、今後の大きな問題だと感じた。

(事務局)

コロナ禍における計画の推進の在り方については、感染症対策に十分に留意しながら進めていく。